様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24 年　6 月 23 日現在

機関番号：33606
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：21592930
研究課題名（和文）　看護学生の抑うつに関する国際比較研究
研究課題名（英文）　international comparative study of depression of nursing students
研究代表者
田中高政（Tanaka Takamasa　）
佐久大学・看護学部看護学科・講師
研究者番号：80398354

研究成果の概要（和文）：
看護学生の抑うつに関する調査票日本語版を作成し、信頼性と妥当性を検証した。国際比較を行った結果、日本の看護学生のストレスは抑うつに影響し、自尊感情と情緒的サポートは負に影響していた。さらに、日本の看護学生は他の4カ国（タイ、台湾、中国、アメリカ）に比較して「ストレス」が有意に高かった。学生がストレスに適切に対処し、自尊感情と情緒的サポートを高めることで、看護学生の抑うつを早期に予防できると思われる。

研究成果の概要（英文）：
The reliability and validity of a Japanese version of "Depression Questionnaire for Nursing Students" was examined. The result showed that stress experienced by Japanese students is correlated to depression and negatively influences self-esteem and social support. Results of the stress scores show that Japanese students score significantly higher than the students of Thai, Taiwan, China and USA. This suggests that it is important for Japanese nursing students to learn to handle their stress properly. This will improve self-esteem and enhance social support in addition to preventing depression.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
21 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
22 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
23 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	1,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：看護学
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学
キーワード：看護学生、抑うつ、国際比較

１．研究開始当初の背景

看護学生は人の健康や生命に関する専門的知識や技術が求められ、過密な授業スケジュール、グループワークや演習、臨床実習など、常に緊張感が絶えない学習環境にある。ストレスフルな環境から気分も意欲も低下し、抑うつ状態になる可能性も高いと思われるが、看護学生と抑うつに関する研究は極めて少ない。看護学生の抑うつに関連する要因が明らかになれば、看護学生の抑うつの早期

発見や早期介入、適切な対応および予防等について検討することができ、調査を行う意義は大きい。

Ross は、“看護学生の抑うつに関する国際比較研究 A comparative study of depression among baccalaureate nursing students of Taiwan, Thailand and United States”で、タイ、台湾、アメリカの看護学生の抑うつについて調査を行った。我々もその研究に日本として参加し、日本の看護学生について国際比較調査を行った。研究の仮説モデルは、１）自尊感情と情緒的サポートは抑うつと負の関連がある。２）ストレスは抑うつと正の関連がある。３）情緒的サポートは自尊感情と正の関連があり、ストレスと負の関連がある。４）自尊感情はストレスと負の関連がある、である。

２．研究の目的

本研究の目的は、アメリカ、タイ、台湾ですでに調査が始まっていた「看護学生の抑うつに関する国際比較研究」に日本として参加し、以下の項目について検討することである。

１）看護学生のストレス、情緒的支援、自尊感情、抑うつに関する自己評価尺度の日本語版を作成する。

２）作成した尺度を通して、日本の看護学生の抑うつの現状を把握する。

３）国際比較を通して、日本の看護学生に特徴的なストレスや抑うつを明らかにする。

４）以上から、日本の看護学生の抑うつの早期発見と教育的介入方法について検討する。

３．研究の方法

１）日本語版尺度の作成

Ross の作成した英語版の調査票（Ross、2005）を基に、看護学生の抑うつに関する調査票日本語版を作成した。

（１）調査対象

調査の承諾が得られた看護専門学校 2 校および看護系大学 2 校に在籍する看護学生 663 人を対象とした。対象者に調査票を配布し、586 人から回答を得た（回収率 88.4%)。回答者の学年は 1 学年 179 人 (31.1%)、2 学年 290 人（56.2%)、3 学年 106 人（18.1%）である。性別は女性 516 人(88.1%)、男性 66 人(11.3%)であり、平均年齢は 20.1±2.62 歳だった。回答に欠損等があった 10 人を除外し、576 人のデータを分析対象とした。

（２）調査期間

調査期間は平成 20 年 12 月から平成 21 年 6 月だった。

（３）調査方法

先行研究の調査（Ross、2005）で用いられた質問紙を日本語に翻訳し、バックトランスレーションを経て修正を加えた。まず各学校へ調査への協力を依頼し、承諾を得た。対象者へ調査の目的と倫理的配慮を口頭で説明し、倫理的配慮に関する内容を明示した無記名式の自記式質問紙を配布した。回答結果は回収用の封筒に入れ封印後、回収ボックスに入れてもらい、１週間後に回収した。収集されたデータを分析し、尺度の信頼性と妥当性の検討を行い、調査票が日本でも使用しうることを確認した。その結果は、第一報として佐久大学看護研究雑誌に報告した（田中、2010)。

２）仮説モデルの検証

仮説モデルを検証し、日本の看護学生の抑うつと自尊感情、情緒的サポート、ストレスとの関連性について検討した（田中、2011)。すなわち、看護学生のストレスは抑うつに影響し、自尊感情と情緒的サポートは負に影響していることが明らかになった（図 1)。この結果は、佐久大学看護研究紀要へ原著論文と

して掲載された。また、アメリカの学会で口演発表された。

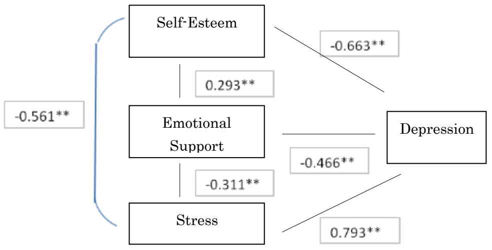

図 1. 各尺度の相関係数（N=576）
Fig1. Correlation of each scale (N=576)

３）調査内容

質問紙の内容は、以下の尺度で構成された。各尺度は、田中らによって翻訳され、信頼性と妥当性が確認された（田中、2010）

（１）自尊感情尺度

Rosenberg Self-Esteem Scale (Rosenberg, 1989)を日本語に翻訳した SEJ(Self Esteem scale for Japanese)を使用した。SEJ は 10 項目からなり、1（全くそうではない）～4（まったくそうである）の 4 段階のリッカートスケールである。高得点ほど自尊感情が高いことを示し、10 項目の尺度得点は 10 点～40 点である。

（２）抑うつ尺度

Radloff ら(Radloff,1977)が開発した The Center for Epidemiology Studies Depression Scale (CES-D)を日本語に翻訳した DSJ (Depression Scale for Japanese) を使用した。DSJ は 20 項目で、0（全く無い）～3（いつもある）の 4 段階のリッカートスケールである。高得点になるほど抑うつ状態が強いことを表し、尺度得点は 0 点から 60 点である。

（３）情緒的サポート尺度

Zimet ら（Zimet , 1988）が開発した Multidimensional Scale of Perceived Social Support (MSPSS)を日本語に翻訳した SSJ(Social Support scale for Japanese)を使用した。SSJ は 1（全くその通りでない）～7（全くその通りである）の 7 段階のリッカートスケールであり、12 項目から構成されている。高得点ほど情緒的サポートが多いことを表し、尺度得点の範囲は、12 点から 84 点である。

（４）ストレス尺度

Levenstein ら（Levenstein, 1993）が開発した The Perceived Stress Questionnaire (PSQ)を日本語に翻訳した PSJ(Perceived Stress scale for Japanese)を使用した。PSJ は 30 項目で構成され、1（ストレスを全く感じない）～4（ストレスを強く感じる）の 4 段階のリッカートスケールである。高得点ほどストレスを強く感じていることを示し、尺度得点の範囲は 30 点から 120 点である。

（５）その他、回答者の属性等に関する項目

個人属性として、性別、年齢、学年の他に“看護学校への入学を誰が決めましたか？”“どのような動機で看護学校へ入りましたか？” “問題に直面したとき、誰にサポートしてもらいますか？”等を質問項目に加えた。これらの質問は、今後の国際比較を行う上で、文化による違いを把握し検討するときの基礎資料になると考え、調査項目に追加した。

４）倫理的配慮

佐久大学研究倫理委員会の承認を受け、倫理的配慮を遵守して調査を行った。調査対象者へ質問紙を配布する際には、口頭により自由意思に基づく参加協力であること、対象者は学生であるため参加・不参加によって成績等への影響は全く無いことを説明した。質問紙の表紙には研究目的、プライバシーへの配慮、データの取扱方法、学会や論文で発表する場合があること、回答はいつでもやめたいときにはやめられること等を明示し、質問紙

の提出をもって調査への参加同意とみなした。

５）分析方法

統計的解析は記述統計、各尺度の得点や入学動機などについて、学校間および学年間の比較を一元配置の分散分析、抑うつの関連要因についてPearsonの積率相関係数を算出した。データの解析にはPASW statistics 18 for Windowsを使用した。

６）中国の看護学生への調査

当初の予定にはなかったが、中国でも調査する機会を得たため、上記調査票の中国版を作成し、中国の看護学生約800人のデータを収集した（小山、2012)。

（１）中国語版質問紙の作成

先行研究(田中高政、2010)の看護学生の抑うつに関する調査票を中国語に翻訳し、中国の共同研究者らと共にバックトランスレーションを実施し修正を加えた後、抑うつと関連要因に関する中国語版質問紙とした。

（２)調査対象

調査対象は中国福建省中医学院看護学部の看護大学学生930人だった。

（３）調査期間

調査期間は平成23年2月～3月だった。

（４）調査方法

看護大学学生に対して、調査について紙面で説明し、自記式質問紙を配布した。回答結果は留置き法により回収した。質問紙930部を配布し,867部回答を得た(回収率93.2%)。

（５）調査内容

質問紙の調査内容は以下のとおりである。

①フェイスシート

性別、年齢、学年、入学動機、抑うつの既往

②質問内容

質問内容は、自尊感情尺度(SEC中国語版)、抑うつ尺度（DSC中国語版)、ソーシャル・サポート尺度（SSC 中国語版)、ストレス尺度（PSC中国語版）だった。

③アンケートに対する感想・意見

（６）結果

看護学生の男女比を日本と中国で比較すると、日本、中国とも男性が少なく、入学動機は日本、中国とも「ひとを助けることができるから」、「確実に仕事に就きたいから」が多く、両国とも似た傾向が見られた。

一方、日本の看護学生と中国の看護学生の間に平均年齢の差があり、教育年数の違いによることが示唆された。

抑うつの既往に関して、日本の学生の5割弱、中国の学生の6割弱が経験しており、「ストレス」尺度は両国とも 70 点台だった。ストレスと抑うつの関係が、日本の学生にも中国の学生にも当てはまることが示唆された。

７）結果

タイ、台湾、中国、アメリカの看護学生と日本の看護学生を比較し、日本の看護学生の特徴が以下のように明らかになった。すなわち、

（１）タイの看護学生に比較して「ストレス」「抑うつ」の得点が有意に高く、「ソーシャル・サポート」「自尊感情」の得点が低かった。

（２）台湾の看護学生に比較して、「ストレス」の得点が有意に高く、「自尊感情」が低かったが、「ソーシャル・サポート」は高かった。

（３）アメリカの学生に比較して「ストレス」の得点が有意に高く、「ソーシャル・サポート」「抑うつ」は低かった。

（４）中国の学生に比較して、「抑うつ」「ストレス」「ソーシャル・サポート」の得点が

有意に高く、「自尊感情」は低かった。

８）考察

今回の調査の有意義な点は、日本の看護学生が他の４カ国に比較して「ストレス」が高いことを明らかにしたことである。先行研究からは、日本の看護学生のカリキュラムが過密であることや、臨地実習がストレスフルであることなどが報告されている。

本研究から、ストレスが抑うつに関連していることが示されている。学生がストレスに適切に対処することができるようになり、自尊感情と情緒的サポートを高めることで、看護学生の抑うつを予防できると思われる。今後は、日本の看護学生の「ストレス」について、他の４カ国とどのように違うのかについてさらに調査を深めていく予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

① 小山智史、竹尾惠子、田中高政、宮地文子、陳錦秀、龐書勤、日中看護学生の抑うつとその関連要因に関する国際比較、佐久大学看護研究雑誌、査読あり、4(1)、2012、pp.29-37

② 田中高政、竹尾惠子、七田惠子、小山智史、羽毛田博美、鷹野時子、橘田みち子、Ratchneewan Ross、抑うつに関連する要因に関する研究-第二報：看護学生の抑うつと自尊感情・情緒的サポート・ストレスとの関係-. 佐久大学看護研究雑誌、査読あり、3(1)、2011、pp.3-13

③ 田中高政、竹尾惠子、七田惠子、小山智史、羽毛田博美、塚田縫子、抑うつとその関連要因に関する研究-第一報：アセスメントツール（日本語版）の検討-、佐久大学看護研究雑誌、査読あり、2(1)、2010、pp.15-28

〔学会発表〕（計１件）

① Ratchneewan Ross, Linda Wolf, Connie Stopper, Lenny Chiang-Hanisko, Puangrant Boonyanurak, Takamasa Tanaka, Keiko Takeo, Yung-Ying Hung. Depressive symptoms among BSN students in four countries; Japan, Taiwan, Thailand, and the USA. 2010 MNRS(Midwest Nursing Research Society) 34th Annual Research Conference. Oral. April 10. 2010. Kansas City, Missouri, USA.

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
田中　高政（TANAKA　TAKAMASA）
佐久大学・看護学部看護学科・助教
研究者番号：80398354

(2)研究分担者
竹尾　惠子（TAKEO　KEIKO）
佐久大学・学長
研究者番号：00114538

小山　智則 (KOYAMA　TOMONORI)
佐久大学・看護学部看護学科・助教
研究者番号：20553514
羽毛田　博美 (HAKETA　HIROMI)
佐久大学・看護学部看護学科・助教
研究者番号：90520832

(3)連携研究者

(　　)

研究者番号：